



第四十七回「卒業証書授与式」より



3月15日、春を思わせる陽気の中、第47回卒業証書授与式を挙行いたしました。式辞の抜粋を紹介させていただきます。



小栗栖中学校 第四十七代卒業生、八十一名の皆さん、義務教育の卒業、おめでとうございます。開校以来の卒業生は七千三百二十一名となりました。歴史と伝統を積みかさね、皆さんもそれを引き継いでくれたことに感謝します。

三年前、晴れて入学式を迎えた翌日から、新型コロナウイルスの影響による学校閉鎖という事態が起り、楽しみにしていた中学校生活はお預け状態となりました。コロナの影響は、中学校生活に大きな支障をきたしたことは間違いないかもしれません。満足な活動ができなかったことを申し訳なく思います。しかし、その中で、最高学年としての姿をしっかりと見せてくれたことに感謝しています。

マスクの着用については自己判断という方針展開があり、少しずつではありますがようやく明るい兆しも見えてきたように思います。自己判断という言葉は大変難しく、文字通り自分で判断しなければなりませんが、まだまだ状況においてはマスク着用を推奨する場面も残っています。まさしく今日、義務教育を終える皆さんにとって、今後の自己責任が必要となる世の中となっています。

小栗栖中学校での学びは今日で終わるとともに、小栗栖中学校の標準服に守られる時が終了します。この先は自分が選んだ高等学校や大学、そして、社会という場に出て自分で自分の道を切り拓いていかなければなりません。その「自分が選んだ新しい道」にはぜひとも、いつも「いそいそ」と向かってくれることを願っています。そして、何度も紹介してきた「慮る」という言葉を改めて送りたいと思います。いま、野球のWBCが行われ、予選リーグで日本が戦ったチェコのチームの紳士的な行動が話題となっています。試合が終わった後に、勝利した日本チームにベンチ前に並んで称賛の拍手を送ったということです。戦いに負けて悔しいはずなのですが、戦い終われば勝者を祝福するというこの精神こそ、他人を「慮れる人間」だと思います。そして、さらに皆さんに望むのは、その行動を気づける人になってほしいということです。他人の慮った行動を見過ごすことなく、次は自分がそういった行動をとれる人であって欲しいということです。



新校の校名案は「栄桜（えいおう）」に決定



新たにできる義務教育学校の校名案が先日お知らせしたように、桜が栄えるようにと「栄桜（えいおう）」となり、今月二十日に要望書が提出されます。承認されれば京都市立栄桜小中学校というのが正式な校名となります。工事の関係で、元小栗栖小学校の桜が伐採され寂しい状況ではあります、開校と共に植樹され小栗栖街道の桜並木が復活することを期待しています。

<今後の予定>

3月23日（木）	離任者HP掲載（午後）
30日（水）	離任の会（10時）
4月 6日（木）	着任式・始業式
7日（金）	入学式

令和5年度に向けて、教職員の異動があります。3月23日（木）12頃からホームページ及び各学舎の入り口付近に掲示いたしますのでご確認ください。